

## 今期業況天気図






### 今期業況天気図

期間：令和4年7月～9月（売上・採算・仕入単価・販売単価・資金繰り・従業員・今期業況のDI値は前年同期との比較）

全業種総合の天気図は「雨」。令和4年7月～9月期の総合業況DIは▲32と、前期▲30から2ポイントの悪化。





















業種別では、小売業・卸売業が▲45（前期差±0ポイント）と前期並みだったほかは、飲食業・サービス業が▲22（前期差2ポイント減）、製造業が▲34（前期差3ポイント減）、建設業は▲42（前期差4ポイント減）で、いずれも小幅の悪化であった。

夏に新型コロナウイルス感染症の第7波が発生したのに加えて、輸入不在不足と円安の進行で物価高に見舞われたため、全業種に渡って景況は厳しい状況であった。

	全業種 総合	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
売上	▲ 17	▲ 17	▲ 27	▲ 28	▲ 8
採算	▲ 36	▲ 39	▲ 48	▲ 48	▲ 25
仕入単価	▲ 70	▲ 87	▲ 79	▲ 82	▲ 51
販売単価	12	16	6	24	9
従業員	21	18	28	13	21
資金繰り	▲ 24	▲ 28	▲ 24	▲ 33	▲ 19
今期業況 (総合判断)	▲ 32	▲ 34	▲ 42	▲ 45	▲ 22
今期業況 天気図					

業況天気図凡例					景観観測調査
 快晴 DI値 31以上	 晴れ DI値 30～11	 薄曇り DI値 10～▲10	 小雨 DI値 ▲11～▲30	 雨 DI値 ▲31以下	前年度同時期との景況を比較し、「良い／悪い」などの指標を数値化し景気動向を調査。 「良い」の回答数の割合から「悪い」の回答数の割合を引いて算出した数値(DI値)を用いる。

### 参考)今期業況天気図の推移

	全産業	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
3四半期前 令和3年10月～ 12月期					
2四半期前 令和4年1月～ 3月期					
1四半期前 令和4年4月～ 6月期					
今期 令和4年7月～ 9月期					





## 今期業況天気図

### 今期業況天気図(小規模事業者)

(商業・サービス業従業員5名以下、その他の業種20名以下)

期間:令和4年7月～9月(売上・採算・仕入単価・販売単価・資金繰り・従業員・今期業況のDI値は前年同期との比較)






小規模事業者のみの全業種総合のDIは▲39で天気図は「雨」。小売業・卸売業も▲50ポイント(前期差1ポイント増)でほぼ前期並み。建設業は▲42(前期差3ポイント減)はやや悪化、製造業は▲41(前期差5ポイント減)、飲食業・サービス業は、▲32(前期差8ポイント減)で前期より悪化した。

	全業種 総合	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
売上	▲27	▲32	▲27	▲43	▲18
採算	▲43	▲43	▲47	▲52	▲36
仕入単価	69	84	80	84	46
販売単価	8	9	5	17	7
従業員	14	12	25	7	9
資金繰り	▲30	▲34	▲26	▲40	▲27
今期業況(総合判断)	▲39	▲41	▲42	▲50	▲32
今期業況 天気図					

### 今期業況天気図(小規模事業者以外の中小企業)

期間:令和4年7月～9月(売上・採算・仕入単価・販売単価・資金繰り・従業員・今期業況のDI値は前年同期との比較)

全業種総合のDI値は▲20と前期の▲21からほぼ変わらず、天気図は「小雨」。小売業・卸売業は▲35(前期差±0ポイント)で前期並み。製造業は▲26(前期差3ポイント減)はやや悪化、飲食業・サービス業が▲10(前期差5ポイント減)で悪化、建設業は▲43(前期差10ポイント減)と、大幅に悪化した。

	全業種 総合	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
売上	1	4	▲29	▲3	3
採算	▲24	▲32	▲50	▲41	▲12
仕入単価	71	92	71	76	58
販売単価	18	24	14	35	11
従業員	32	26	50	24	36
資金繰り	▲14	▲20	▲7	▲21	▲10
今期業況(総合判断)	▲20	▲26	▲43	▲35	▲10
今期業況 天気図					

業況天気図凡例					景気観測調査
 快晴 DI値 31以上	 晴れ DI値 30～11	 薄曇り DI値 10～▲10	 小雨 DI値 ▲11～▲30	 雨 DI値 ▲31以下	<p>&lt;&lt;景気観測調査&gt;&gt; 前年度同時期との景況を比較し、「良い／悪い」などの指標を数値化し景気動向を調査。 「良い」の回答数の割合から「悪い」の回答数の割合を引いて算出した数値(DI値)を用いる。</p>

## 次期見通し業況天気図






### 次期見通し業況天気図

令和4年7月～9月見込(売上・採算・仕入単価・販売単価・資金繰り・従業員・次期業況DI値は今期との比較)

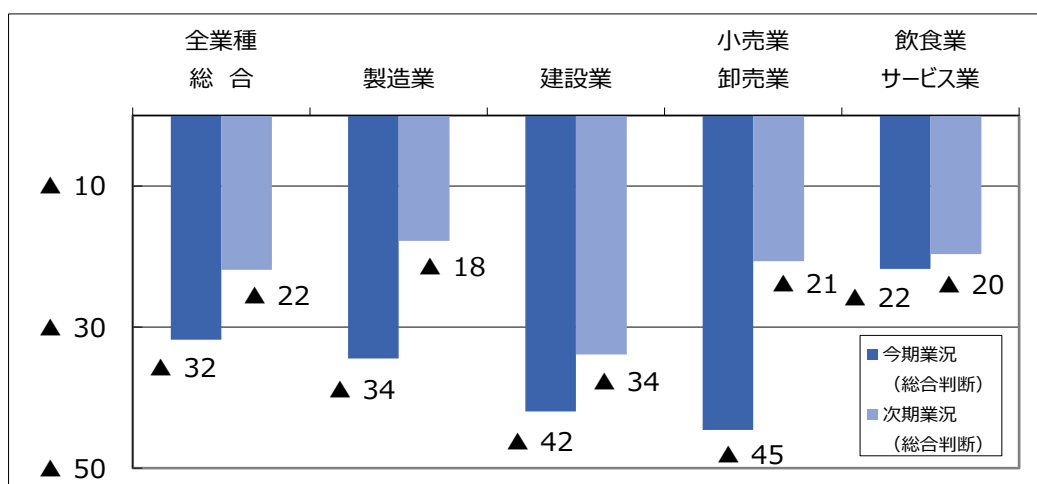
全産業の次期見通しの天気図は、▲22(今期差10ポイント増)で「小雨」と、今期の「雨」から改善の見込み。

産業別にみると、小売業・卸売業は▲21(前期差24ポイント増)、製造業は▲18(今期差16ポイント増)とで、大幅な改善を見込む。建設業は▲34(今期差8ポイント増)と、飲食業・サービス業は▲20(今期差2ポイント増)、全業種で改善が進む予想である。

	全業種 総合	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
売上	▲7	2	▲18	▲7	▲8
採算	▲23	▲18	▲37	▲25	▲19
仕入単価	▲61	▲73	▲65	▲70	▲49
販売単価	13	17	3	37	8
従業員	20	18	21	13	23
資金繰り	▲20	▲19	▲22	▲22	▲19
次期業況 (総合判断)	▲22	▲18	▲34	▲21	▲20
次期業況 天気図					

業況天気図凡例					景気観測調査
 快晴 DI値 31以上	 晴れ DI値 30～11	 薄曇り DI値 10～▲10	 小雨 DI値 ▲11～▲30	 雨 DI値 ▲31以下	<<景気観測調査>> 前年度同時期との景況を比較し、「良い／悪い」などの指標を数値化し景気動向を調査。 「良い」の回答数の割合から「悪い」の回答数の割合を引いて算出した数値(DI値)を用いる。

### 参考) 今期と次期の業況DI



## 次期見通し業況天気図

### 次期見通し業況天気図(小規模事業者)

(商業・サービス業従業員5名以下、その他の業種20名以下)

令和4年10月～12月見込(売上・採算・資金繰り・仕入単価・販売単価・従業員・次期業況DI値は今期との比較)

全産業の次期見通しは▲27(今期差12ポイント増)、「雨」から「小雨」に改善。産業別にみると、小売業・卸売業は▲28(今期差22ポイント増)、製造業は▲25(今期差16ポイント増)と大きく改善する予想である。飲食業・サービス業は▲22(今期差10ポイント増)、建設業も▲35(今期差7ポイント増)と、全産業で改善が進む見込みである。

	全業種 総合	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
売上	▲17	▲10	▲18	▲22	▲18
採算	▲29	▲21	▲38	▲31	▲27
仕入単価	▲61	▲71	▲66	▲76	▲44
販売単価	8	7	1	31	6
従業員	14	15	23	7	9
資金繰り	▲25	▲29	▲23	▲28	▲23
次期業況(総合判断)	▲27	▲25	▲35	▲28	▲22
次期業況 天気図					

### 次期見通し業況天気図(小規模事業者以外の中小企業)

令和4年10月～12月見込(売上・採算・仕入単価・販売単価・資金繰り・従業員・次期業況DI値は今期との比較)

全産業の次期見通しの天気図は、▲13(今期差7ポイント増)で、「小雨」の予測。産業別にみると、小売業・卸売業は▲9(今期差26ポイント増)、製造業が▲7(今期差19ポイント増)、建設業は▲29(今期差14ポイント増)と大幅な改善を見込み、再び回復に向かうと考えられている。飲食業・サービス業は▲17(今期差7ポイント減)と今期に引き続き、減少の見込みである。

	全業種 総合	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
売上	10	19	▲14	21	5
採算	▲13	▲14	▲29	▲15	▲11
仕入単価	▲62	▲77	▲57	▲59	▲55
販売単価	22	31	21	47	11
従業員	31	23	7	24	40
資金繰り	▲11	▲5	▲14	▲12	▲14
次期業況(総合判断)	▲13	▲7	▲29	▲9	▲17
次期業況 天気図					

業況天気図凡例					景気観測調査
					<<景気観測調査>> 前年度同時期との景況を比較し、「良い/悪い」などの指標を数値化し景気動向を調査。 「良い」の回答数の割合から「悪い」の回答数の割合を引いて算出した数値(DI値)を用いる。
DI値 31以上	DI値 30~11	DI値 10~▲10	DI値 ▲11~▲30	DI値 ▲31以下	

## 業況DIの推移

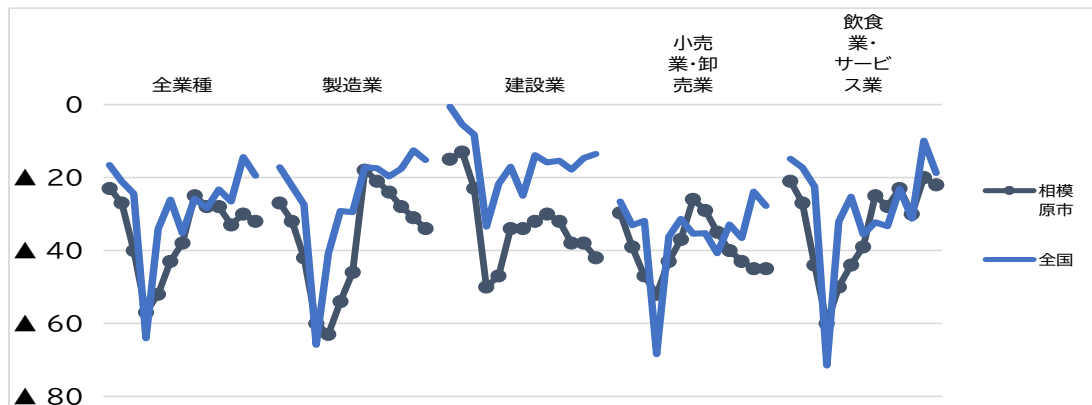
### 業況DI(前年同期比)の推移

全産業の業況DIは、前期▲30から▲32(前期差2ポイント減)と若干の悪化。

産業別にみると、小売業・卸売業は▲45(前期差±0ポイント)が前期同様であったほか、飲食業・サービス業が▲22(前期差2ポイント減)、製造業が▲34(前期差3ポイント減)、建設業は▲42(前期差4ポイント減)と、若干の悪化であった。

全国と比較すると、製造業と建設業で全国との差が拡大し続けて、さらに悪化している。飲食業・サービス業はほぼ全国と同様の傾向である。

(令和元年7-9月期～令和4年7-9月期、前年同期比)

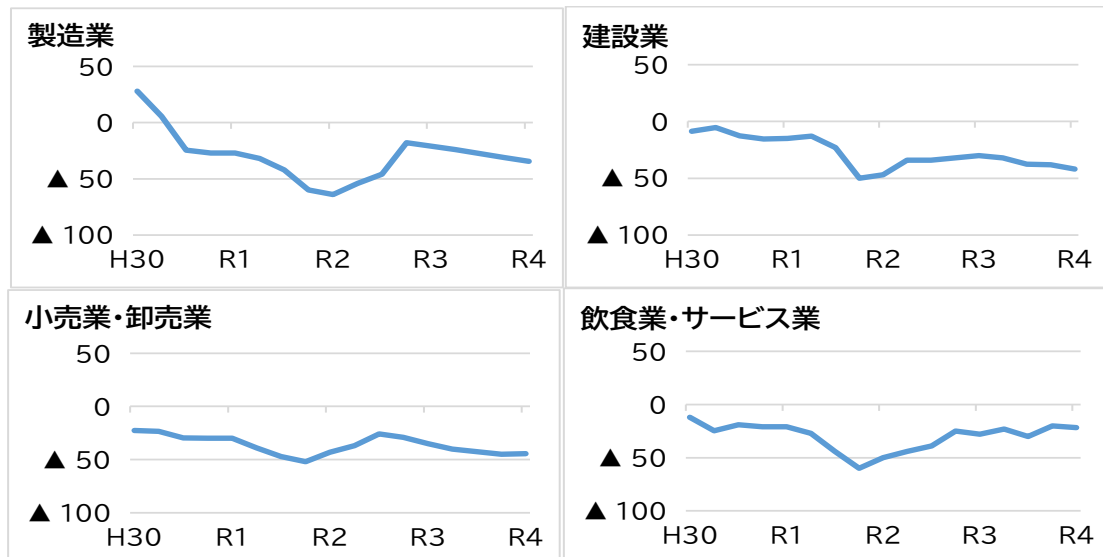


※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用、「業況判断DI」を使用。

※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用

※業況DIについて、当所では「総合判断」、中小企業庁は「業況(自社)」を質問項目としている

### 参考)業況DI(前年同期比)の長期推移(業種別)



## 業況DI(特徴的なトピックス)

産業別に寄せられた特徴的なトピックスは以下のとおりである。

### 【製造業】

- ・経済がコロナ前の状況に戻りつつあることを感じます。【精密機械加工】
- ・2022年1月の新型コロナウイルスの感染拡大、2月のロシアによるウクライナ侵攻以来、大変厳しい状態が続いております。10月以降の下期に期待しております。【単品・小ロットの加工部品治工具・試作・精密部品】
- ・営業職の採用を昨年夏から取り組んでいるが、なかなか採れない。【空圧制御バルブ】
- ・高圧電力の料金増で、月100万の経費増。【半導体製造装置向け板金製品】

### 【建設業】

- ・コロナ濃厚接触者や罹患者が出た場合の従業員不足となる心配。【造園・土木】
- ・鋼材仕入単価の上昇。【鉄骨建築工事】
- ・仕入れ価格の上昇を販売価格に転嫁するのは競合があるため難しい。【管工事】
- ・民間工事の採算が厳しい。【電気工事業】

### 【小売業・卸売業】

- ・11月頃、一時回復期待。【たばこ、酒、飲料、toto・宝くじ】
- ・コロナ禍第7波と猛暑が重なり7月後半から来客数と売上の低下が顕著になり、それが8月の前半もそのまま続いてしまっています。特に今回のコロナの影響は蔓延防止等重点措置や緊急事態宣言下の昨年一昨年よりも大きいです。具体的には実際にコロナに罹患した方や濃厚接触者になってしまった方が顧客様の中に多く発生していて、結果としてご来店客数や販売数が落ち込むという問題が発生しております。過去2年では把握している顧客様の中で感染者が0だった事を考えると今回は大打撃です。【紳士服・婦人服・靴・鞆・雑貨小売、カフェ営業】
- ・仕入値の上昇が止まらない。【スポーツ用品販売】
- ・取引先・仕入れ先の対応力や対応スピードが著しく低下してきている。人員不足か否かわからないが、仕入れ先・取引先のその先(資材メーカー等)から同様なことが起きている様子。【省庁向け資材・器材開発・販売、省庁向け機材整備、民間向け機材整備、インターネットショッピングモール内店舗運営】

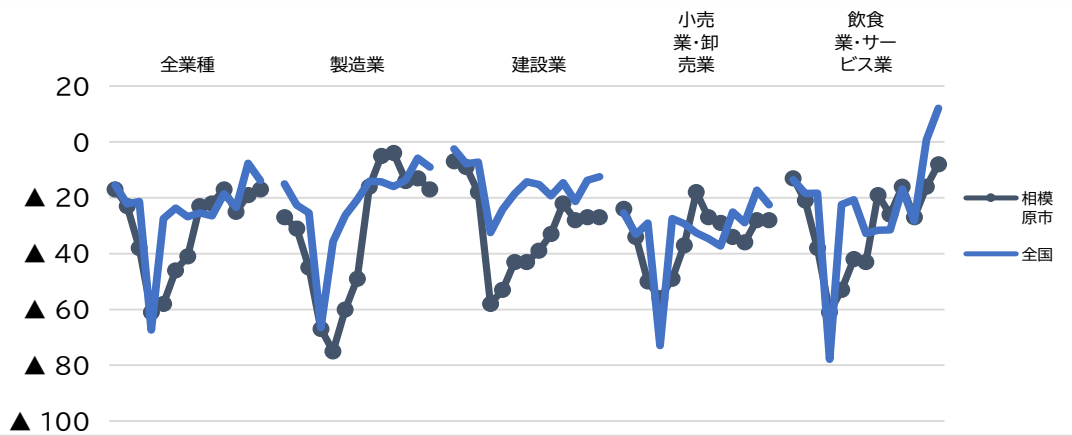
### 【飲食業・サービス業】

- ・新卒採用が難しくなっている。案件が増えてきており、業界的には活況だと思われる。リモートワークの影響か、身体不調の社員が増えている。離職率が高くなっている。【ソフトウェア開発、サーバー構築】
- ・ガソリン代の値上げ。【オートバイ出張メンテナンス】
- ・行動制限緩和により若干ではありますが観光事業に回復の兆しがある。しかしながら、感染が急拡大している昨今、今後の影響が懸念される。また、燃料価格の高騰を受けて採算は厳しいものとなっている。【貸切バス事業等】
- ・今年度は、県からの受注が大幅に増加したことから、経営は安定したものと考えます。【自家発電工作物保安業務】
- ・好景気の感触。【理容】

売上DI(前年同期比)の推移

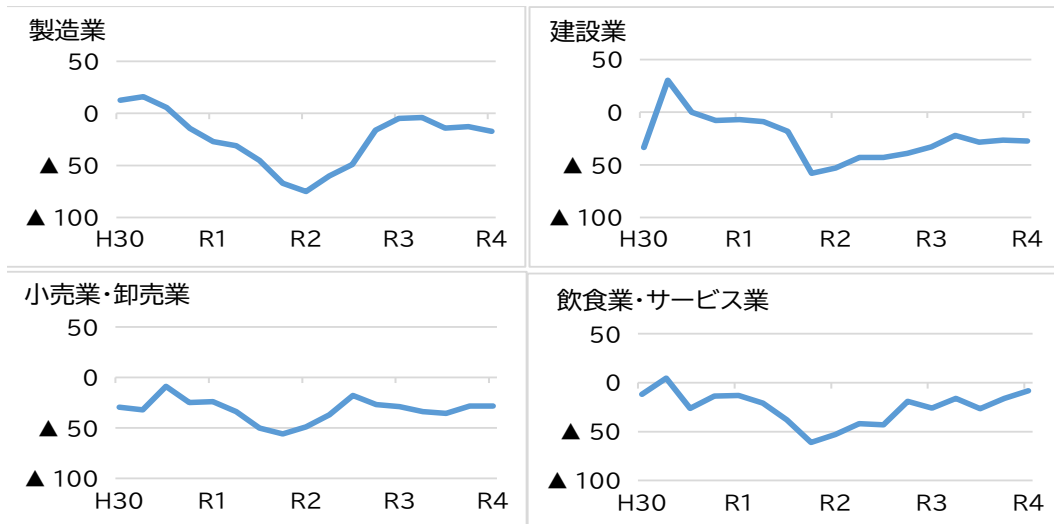
全産業の売上DIは、前期▲19から▲17(前期差2ポイント増)と、前期並みであった。産業別にみると、飲食業・サービス業は▲8(前期差8ポイント増)は改善が進んだ。小売業・卸売業は▲28(前期差±0ポイント)、建設業は▲27(前期差±0ポイント)と前期と変わらなかった。製造業は▲17(前期差4ポイント減)とやや悪化した。飲食業・サービス業は前期から引き続き改善が続いている。それ以外の業種は足踏みの状況が続く  
 全国と比較すると、当市のほうが全業種でDIが低い状況が続いている。

(令和元年7-9月期～令和4年7-9月期、前年同期比)



※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用、「売上額DI」を使用。  
 ※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用

参考) 売上DI(前年同期比)の長期推移(業種別)

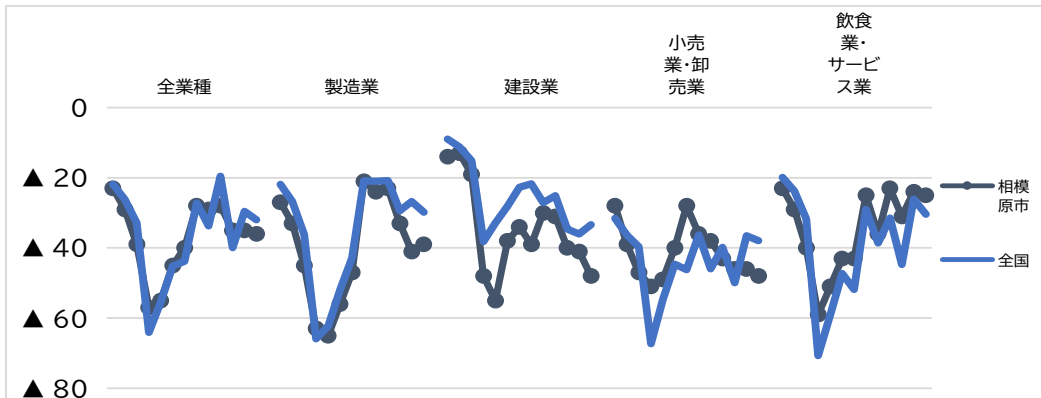


## 採算DIの推移

### 採算DI(前年同期比)の推移

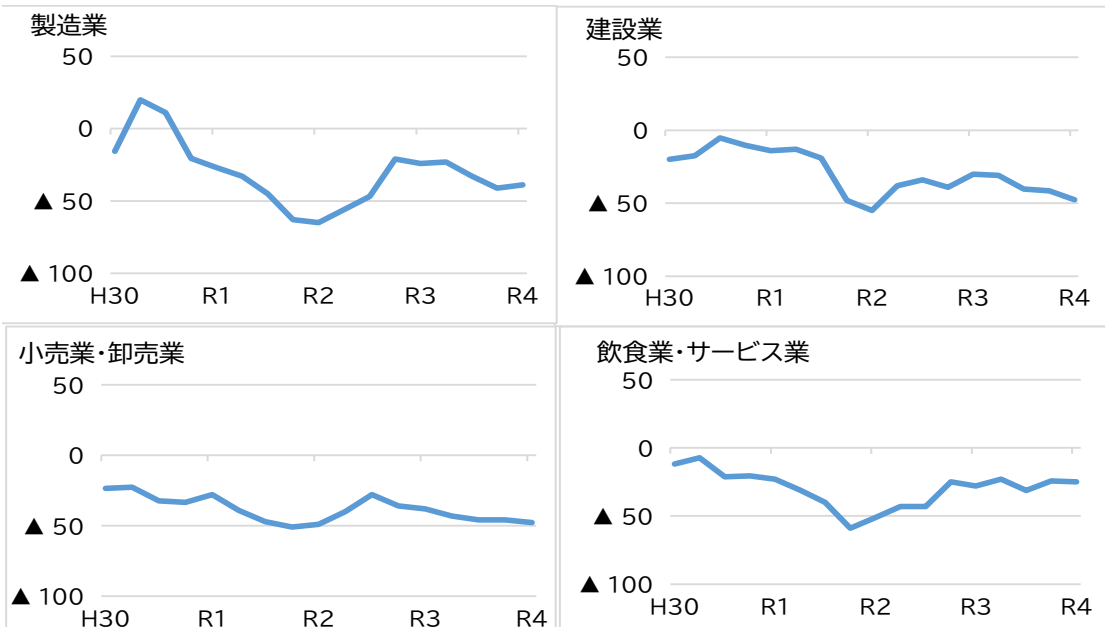
全産業の採算DIは、▲36(前期差1ポイント減)とほぼ前期並み。  
 産業別にみると、製造業が▲39(前期差2ポイント増)、飲食業・サービス業が▲25(前期差1ポイント減)、小売業・卸売業が▲48(前期差2ポイント減)とほぼ前期並みであった。建設業は▲48(前期差7ポイント減)で、やや悪化した。  
 売上が改善した飲食業・サービス業も、採算性は改善していない。製  
 産業別に今期の数値を全国値と比較すると、建設業が全国より状況が悪くなってきている。飲食業・サービス業の採算DIは全国と同様である。

(令和元年7-9月期～令和4年7-9月期、前年同期比)



※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用  
 ※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用  
 ※採算DIについて、当所では「採算」、中小企業庁は「経常利益」を質問項目としている

### 参考) 採算DI(前年同期比)の長期推移(業種別)





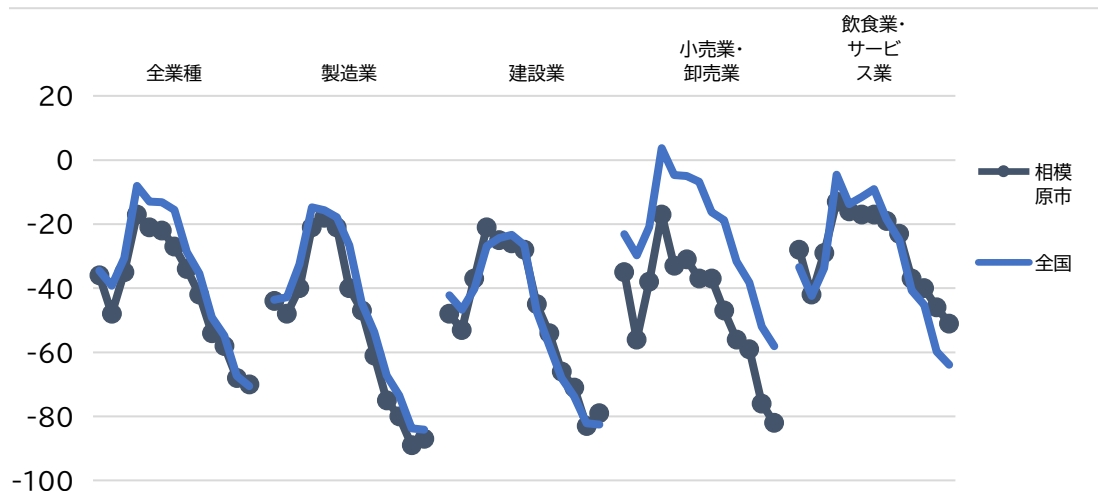
## 仕入単価DIの推移

### 仕入単価DI(前年同期比)の推移

全産業の仕入単価DIは▲70(前期差2ポイント減)で、前期よりもさらに悪化した。産業別にみると、建設業は▲79(前期差4ポイント増)、製造業は▲87(前期差2ポイント増)と、大幅な原料・資材価格上昇が続き、最低の状況が続く。小売業・卸売業も▲82(前期差6ポイント減)とさらに悪化し、ほぼ下がりきった状態となった。飲食業・サービス業についても▲51(前期差5ポイント減)と、DIが下がり続けている。

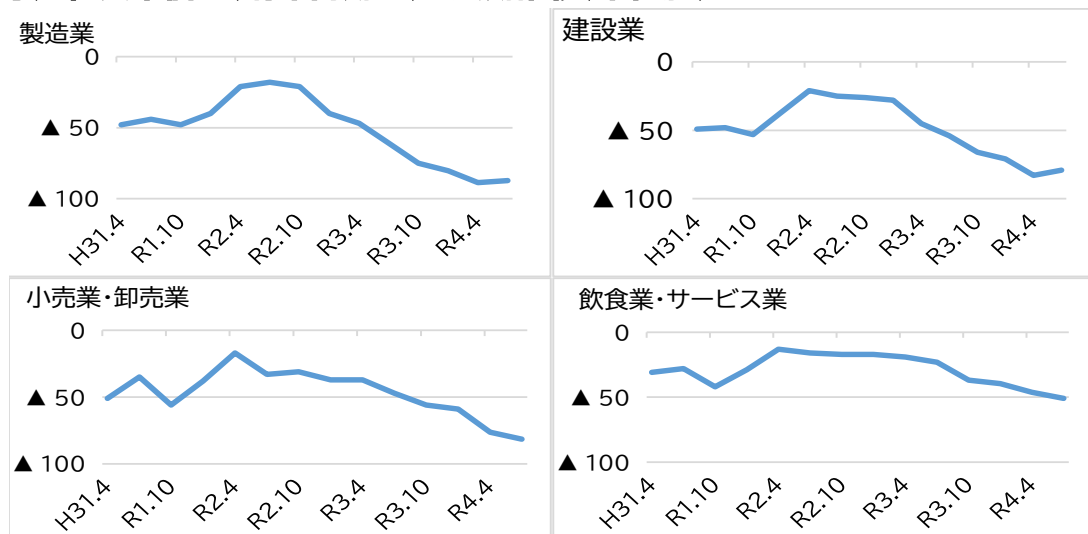
全国の状況と比較すると、小売業・卸売業において仕入単価の高騰が全国よりも深刻となっている。

(令和元年7-9月期～令和4年7-9月期、前年同期比)



※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用、「原材料・商品仕入単価DI」を使用。  
 ※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用  
 ※仕入単価DIについて、当所では「DI=下落-上昇、中小企業庁は「上昇-低下」で算出。  
 比較にあたっては、全国値の符号を反転させている。

### 参考) 仕入単価DI(前年同期比)の長期推移(業種別)



## 販売単価DIの推移

### 販売単価DI(前年同期比)の推移

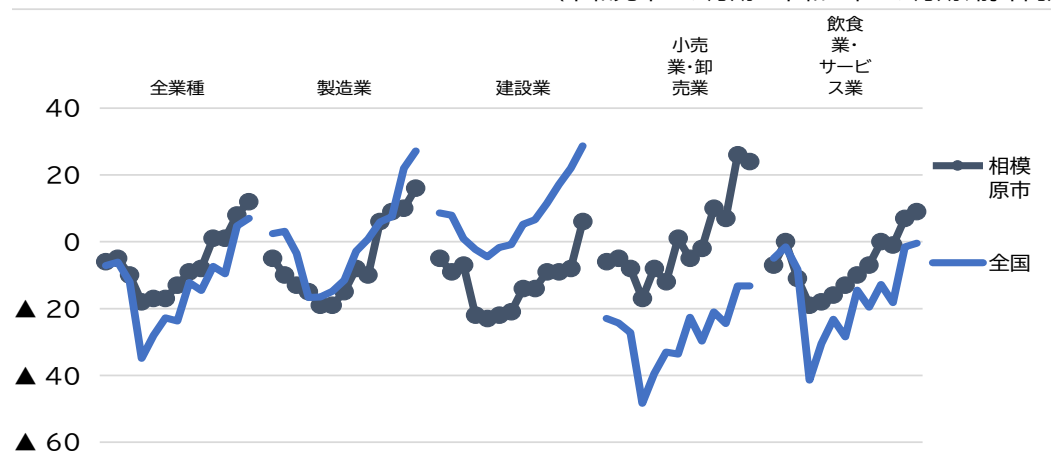
全産業の販売単価DIは、12(前期差4ポイント増)とやや増加した。

産業別にみると、建設業は6(前期差14ポイント増)と大幅に増加した。製造業で16(前期差6ポイント増)も増加。飲食業・サービス業が9(前期差2ポイント増)と小売業・卸売業が24(前期差2ポイント減)はほぼ前期並みであった。

価格転嫁の遅れていた建設業で、急速に価格転嫁が進んできた。前期価格が上がった小売業・卸売業では価格上昇は足踏みとなった。

産業別に今期の数値を全国値と比較すると、製造業と建設業は全国よりも低い水準である。小売業・卸売業は全国より大幅に販売単価DIが高い状況が続く。

(令和元年7-9月期～令和4年7-9月期、前年同期比)

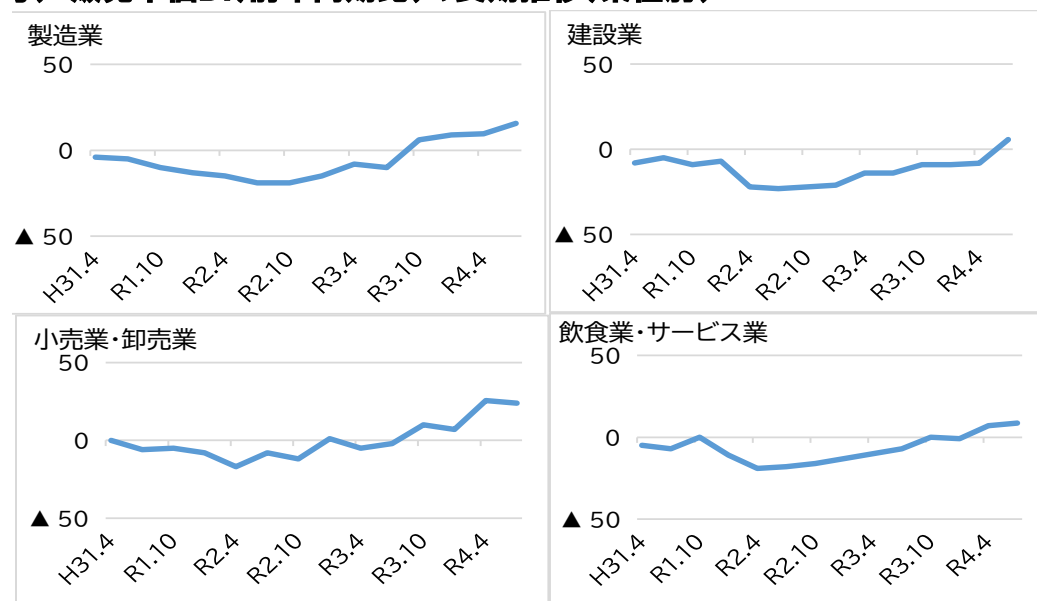


※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用、「販売単価・客単価DI」を使用。

※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用

※建設業については、全国値は日本商工会議所「早期景気観測商工会議所LOBO／建設業令和4年6月」分類の値を使用

### 参考) 販売単価DI(前年同期比)の長期推移(業種別)



### 従業員DIの推移

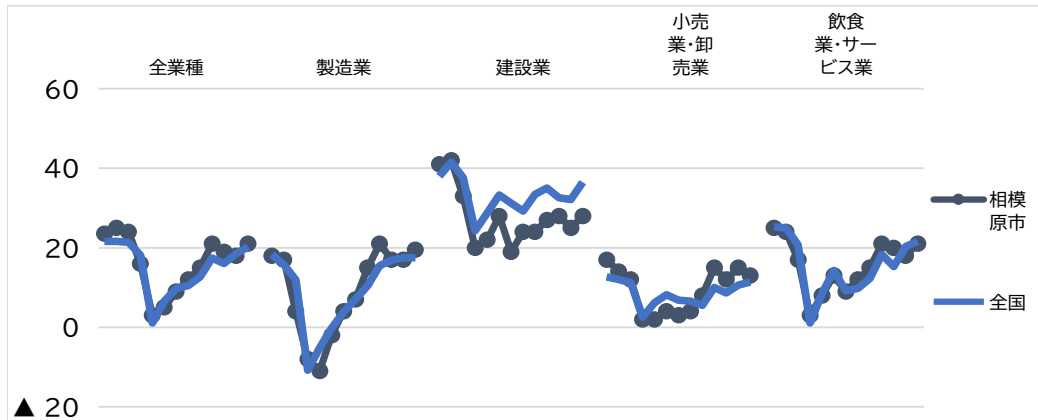
## 従業員DI(前年同期比)の推移

全産業の従業員DIは、21(前期差3ポイント増)で、前期並みであった。

産業別では、建設業は28(前期差3ポイント増)、飲食業・サービス業は21(前期差3ポイント増)と若干の増加。製造業は18(前期差1ポイント増)と、小売業・卸売業が13(前期差2ポイント減)は前期並みであった。

産業別に今期の数値を全国値と比較すると、いずれの業種も全国と同様なDI値の傾向となっている。

(令和元年7-9月期～令和4年7-9月期、前年同期比)



※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用、「従業員数過不足DI」を使用。

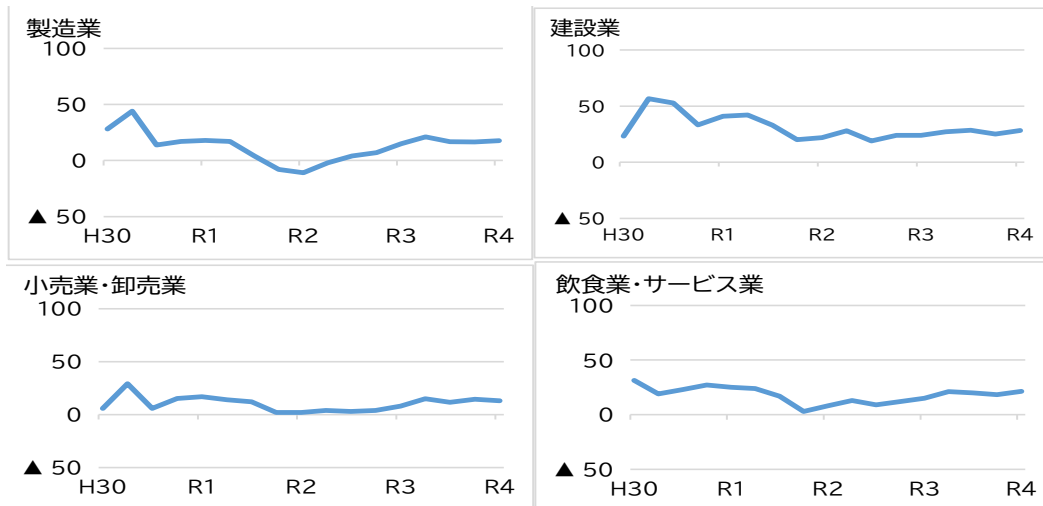
※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用

※従業員DIについて、当所では「前年同期比」、中小企業庁は「今期の水準(過去との比較ではない)」を調査

※従業員DIについて、当所では「DI=不足-過剰、中小企業庁は「過剰-不足」で算出。

比較にあたっては、全国値の符号を反転させている。

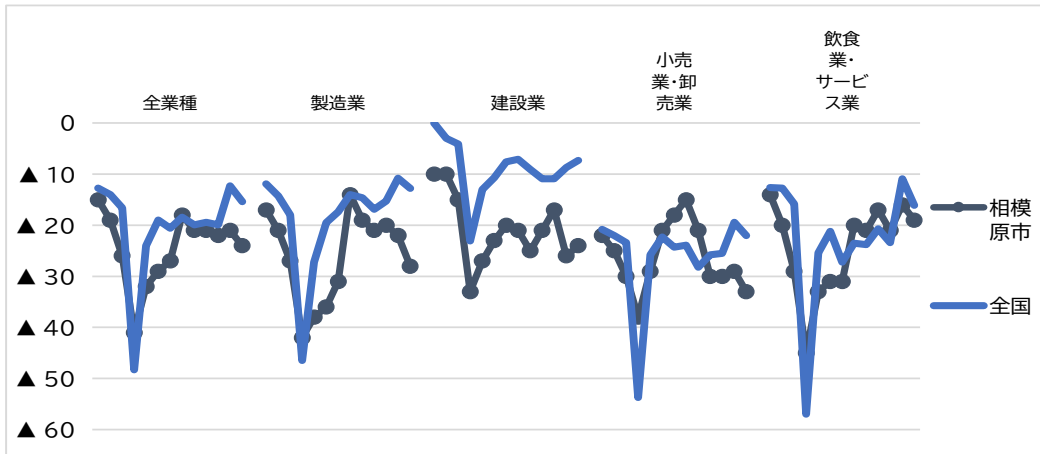
## 参考) 従業員DI(前年同期比)の長期推移(業種別)



### 資金繰りDI(前年同期比)の推移

全産業の資金繰りDIは、▲24(前期差3ポイント減)と前期並みであった。  
 産業別にみると、建設業は▲24(前期差2ポイント増)で前期並み。飲食業・サービス業は▲19(前期差3ポイント減)、小売業・卸売業は▲33(前期差4ポイント減)、製造業は▲28(前期差6ポイント減)でやや悪化が進んだ。  
 材料、燃料価格の上昇の影響が大きかった製造業は、資金繰りの悪化が進んだ。  
 産業別に当市の今期の数値を全国値と比較すると、全業種において当市のほうが資金繰りの状況が悪くなっている。

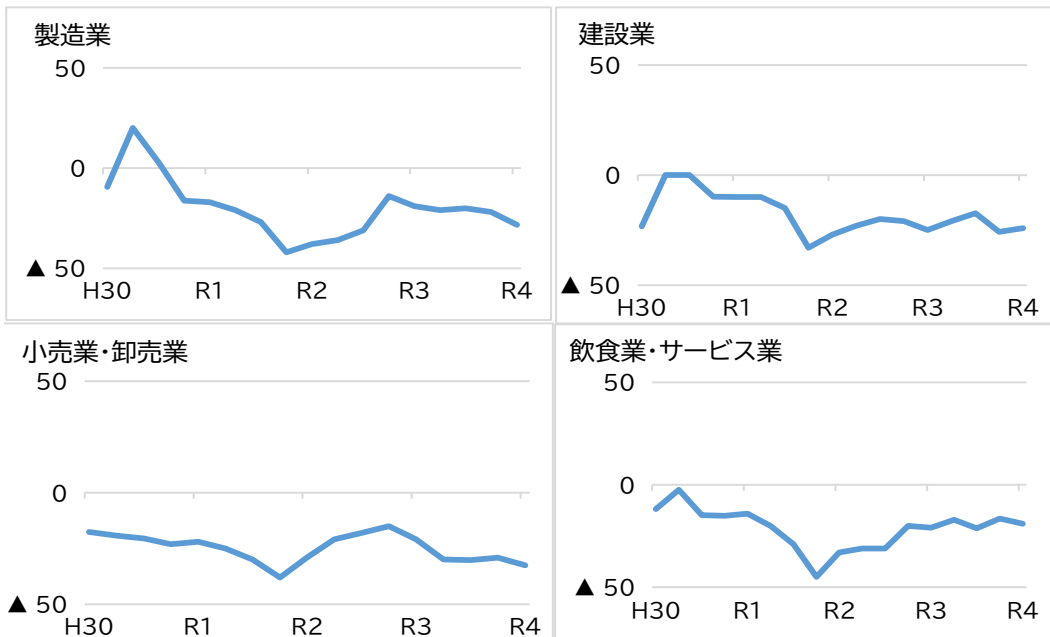
(令和元年7-9月期～令和4年7-9月期、前年同期比)



※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用

※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用

### 参考) 資金繰りDI(前年同期比)の長期推移(業種別)



集計表(景気観測調査)

			今期(R4.7~R4.9)				次期見通し(R4.10~R4.12)			
			売上:増加 採算:資金、総 仕入:下落 販売:上昇 従業員:不足	不変	売上:減少 採算:資金、総 仕入:上昇 販売:下落 従業員:過剰	合計/DI値	売上:増加 採算:資金、総 仕入:下落 販売:上昇 従業員:不足	不変	売上:減少 採算:資金、総 仕入:上昇 販売:下落 従業員:過剰	合計/DI値
製造業	売上	サンプル数	47	55	78	180	51	81	48	180
		構成比	26	31	43	▲17	28	45	27	2
	採算	サンプル数	21	68	91	180	35	78	67	180
		構成比	12	38	51	▲39	19	43	37	▲18
	仕入単価	サンプル数	2	19	159	180	3	42	135	180
		構成比	1	11	88	▲87	2	23	75	▲73
	販売単価	サンプル数	50	108	22	180	51	108	21	180
		構成比	28	60	12	16	28	60	12	17
	従業員	サンプル数	39	134	7	180	39	135	6	180
		構成比	22	74	4	18	22	75	3	18
資金繰り	サンプル数	8	113	59	180	11	123	46	180	
	構成比	4	63	33	▲28	6	68	26	▲19	
業況	サンプル数	20	78	82	180	29	90	61	180	
	構成比	11	43	46	▲34	16	50	34	▲18	
建設業	売上	サンプル数	20	50	54	124	17	68	39	124
		構成比	16	40	44	▲27	14	55	31	▲18
	採算	サンプル数	5	55	64	124	6	66	52	124
		構成比	4	44	52	▲48	5	53	42	▲37
	仕入単価	サンプル数	1	24	99	124	2	39	83	124
		構成比	1	19	80	▲79	2	31	67	▲65
	販売単価	サンプル数	25	81	18	124	24	80	20	124
		構成比	20	65	15	6	19	65	16	3
	従業員	サンプル数	36	87	1	124	29	92	3	124
		構成比	29	70	1	28	23	74	2	21
資金繰り	サンプル数	3	88	33	124	2	93	29	124	
	構成比	2	71	27	▲24	2	75	23	▲22	
業況	サンプル数	5	62	57	124	6	70	48	124	
	構成比	4	50	46	▲42	5	56	39	▲34	
小売業・卸売業	売上	サンプル数	22	22	48	92	28	30	34	92
		構成比	24	24	52	▲28	30	33	37	▲7
	採算	サンプル数	12	24	56	92	12	45	35	92
		構成比	13	26	61	▲48	13	49	38	▲25
	仕入単価	サンプル数	1	15	76	92	2	24	66	92
		構成比	1	16	83	▲82	2	26	72	▲70
	販売単価	サンプル数	31	52	9	92	41	44	7	92
		構成比	34	57	10	24	45	48	8	37
	従業員	サンプル数	13	78	1	92	14	76	2	92
		構成比	14	85	1	13	15	83	2	13
資金繰り	サンプル数	5	52	35	92	3	66	23	92	
	構成比	5	57	38	▲33	3	72	25	▲22	
業況	サンプル数	8	35	49	92	12	49	31	92	
	構成比	9	38	53	▲45	13	53	34	▲21	
飲食業・サービス業	売上	サンプル数	77	112	101	290	61	146	83	290
		構成比	27	39	35	▲8	21	50	29	▲8
	採算	サンプル数	33	152	105	290	37	160	93	290
		構成比	11	52	36	▲25	13	55	32	▲19
	仕入単価	サンプル数	7	128	155	290	3	143	144	290
		構成比	2	44	53	▲51	1	49	50	▲49
	販売単価	サンプル数	45	225	20	290	44	226	20	290
		構成比	16	78	7	9	15	78	7	8
	従業員	サンプル数	69	214	7	290	73	211	6	290
		構成比	24	74	2	21	25	73	2	23
資金繰り	サンプル数	13	209	68	290	9	217	64	290	
	構成比	4	72	23	▲19	3	75	22	▲19	
業況	サンプル数	32	163	95	290	31	171	88	290	
	構成比	11	56	33	▲22	11	59	30	▲20	
全業種 総合	売上	サンプル数	166	239	281	686	157	325	204	686
		構成比	24	35	41	▲17	23	47	30	▲7
	採算	サンプル数	71	299	316	686	90	349	247	686
		構成比	10	44	46	▲36	13	51	36	▲23
	仕入単価	サンプル数	11	186	489	686	10	248	428	686
		構成比	2	27	71	▲70	1	36	62	▲61
	販売単価	サンプル数	151	466	69	686	160	458	68	686
		構成比	22	68	10	12	23	67	10	13
	従業員	サンプル数	157	513	16	686	155	514	17	686
		構成比	23	75	2	21	23	75	2	20
資金繰り	サンプル数	29	462	195	686	25	499	162	686	
	構成比	4	67	28	▲24	4	73	24	▲20	
業況	サンプル数	65	338	283	686	78	380	228	686	
	構成比	9	49	41	▲32	11	55	33	▲22	

## 集計表(トピックス)

製造業
2022年1月の新型コロナウイルスの感染拡大、2月のロシアによるウクライナ侵攻以来、大変厳しい状態が続いております。10月以降の下期に期待しております。【単品・小ロットの加工部品、治工具・試作・精密部品】
あまり景気に左右されない業界である。【臨床検査薬の開発・製造・販売】
いつまで会社を維持させる事が出来るか、倒産する前に閉じなければと考えています。【製缶業、コンベアー、工場総合設備】
コスト高。【食品】
コロナによる影響が徐々に薄れてきている。イベント等の行政要請による中止が無いので、受注も増えてきている。石油製品が原材料であることから、仕入コストの上昇が響き、利益率を圧迫している。高齢人材の交代要員として若手の採用を望んでいるが、待遇面の見直しを図っても採用難が続いている。大手並の待遇を用意しないと若手は今後採用できないのではないかと危惧している。【特殊美術造形】
コロナの影響により消費の低迷と電気部品(モーター含)の入荷に1年の納期がかかること。【プラスチック押出成形用機械の製造販売(引取機、切断機)】
コロナ感染により従業員不足による売上不振。【軸受(オイルレスブッシュ)】
サプライチェーン問題で半導体など電気部品の入手が相変わらず厳しい。昨年から厳しさは変わらない。【制御盤製作、電機工事】
令和5年以降不明。【省力機器】
ステンレス・アルミの鋼材が値上り続きで採算が合わない。【溶接板金加工、精密板金加工】
とにかく材料が手に入らず困っております。【精密機械の製造】
一部の材料が入手困難および納入遅れにより、製造が出来ず在庫過剰となり、資金繰りを圧迫している状況が続いている。営業職の採用を昨年夏から取り組んでいるが、なかなか採れない。【空圧制御バルブ】
円安の影響。【通信用ケーブル及び周辺機器の製造・販売】
夏のボーナスが好調というニュースが流れていましたが、こんなに不景気なのに何故だか全く理解できません。いいのは大企業だけなのでしょうか。【金型プレス加工】
海外仕入れの負担増。【ヨットのマスト、リギンの設計・製造他】
海外情勢の影響がここまで長引くと打つ手がない事につくづく感じた。ものづくりとか匠とか関係なくコスト一択に本当にかっかりしている。【自動車車体製造業】
急激且つ乱高下する円ドル為替に対応が難しい。【1. 電子応用装置の設計・製造、2. 防犯関連機器の販売・メンテナンス】
業界全体の景気回復の兆し。【プリント配線板製造】
景気感、品不足、円安の影響が不況感。特に人手不足(エンジニア)。【自動制御盤】
経済がコロナ前の状況に戻りつつあると感じます。【精密機械加工】
原材料・仕入単価の上昇が続くと販売価格に転嫁できないので景気は悪化すると感じます。【鋼材切断・加工】
原材料・副資材の高騰及びそれをタイムリーに製品に転嫁できない。【電池部品の成形】
原材料の増加。【金属表面処理加工、アルマイト加工、フープ部分金めっき処理】
原材料価格(仕入)が全てに20%値上、販売価格に転嫁しにくい状況。【工業用銘板、ラベル】
原材料高騰。【金属製品塗装業】
購入品の長納期化や納期回答が得られないので製品の納期が出せていない。【電気電子機器(雷対策製品)】
鋼材及び電力料の値上げの影響が大きい。【自動車用オイルフィルタ一部品製造販売】
高圧電力の料金増で、月100万の経費増。【半導体製造装置向け板金製品】

最低賃金上げ過ぎ！！【板金加工】
在庫調整が一巡し、下期は売上増加を期待。【プリント基板】
材料の高騰。【金属挽物当】
材料の入荷がなかなか難しい。【電源トランス、各種コイル制作、スイッチングトランス制作販売】
材料価格高騰と製造設備部品の調達難。【電力機器、配電機器、免震・制振・制音デバイス、精密デバイス】
材料仕入れ値の上昇及び自動車関係の生産減少や加工単価上昇に伴い、弊社主力加工製品の加工依頼受注が減少している。全体的に国内国外問わず、生産数量が大幅に落ち込んでいる。コロナの影響も引き続き大きく人手不足や社会生活や就労への影響が大きい。【軟質ウレタンフォーム加工及びウレタンチップフォーム製造加工】
材料代の高騰。今年に入って3回目。(特に溶剤等)、受注状況が不安定。仕事が無い訳ではないが短納期、急遽延滞が多い。【工業製品塗装】
材料調達が不安定で業績に影響を及ぼしている。【産業用モータ制御装置の製造販売】
材料費の高騰が著しい。【製造業】
材料費の上昇(円安影響)および長納期と調達不安から先行手配した材料が一時的に在庫過多となり、収支が悪化している。受注も売上も好調を維持している。【電子部品製造販売】
仕入れ価格の上昇、販売価格への転嫁が課題。【パッシブ除振台・アクティブ除振台・防振装置・各種防振ゴム・制振材・吸音材・除振工事・防振工事・制振工事・除振コンサルタント・振動測定及び解析】
仕入れ材料及び電気・ガソリン代等の値上げ。【金属・樹脂部品機械加工】
仕入れ単価の上昇、処理費用の上昇。【精密板金加工業】
仕入単価の上昇。【印刷】
仕入単価の上昇幅が大きい。時間給は1,500円でも構わないが、103万、130万の年収の引き上げをして欲しい。【ジャズポップコーン、ポップコーン原料豆】
仕入単価の著しい上昇と市場からのモノ不足による影響をどこまで抑えられるか。【省力装置・治具などの設計製作】
仕入単価上昇。【プラスチックモデル】
仕入単価上昇して受け入れているが、販売先への転嫁ができず収益率の低下になっている。他業者も同じような状況で、中間業者が一番困っている。【アルミ手摺等の製造・販売・取付】
自動車生産の停滞が自社受注状況に波及してきている。【プリント基板の穴あけ加工】
自動車部品の輸入制限による、自動車メーカーの休業。【切削工具製造及び再研磨】
取引先のシステムの変更や輸入品の入荷が不安定のためリードタイムが長くなり在庫スペースを圧迫している。手間も多くなり、物流関係の従業員が不足し外注費が増加。人件費も全体に上がっているため、売上の割に利益率が低下している。【各種製品の加工、検査及び包装】
受注数の減少、部品が入ってこない。【機械設計製作】
受発注の状況。【印刷】
受発注の変動幅の大きさ。【自動車、建設機械部品製造】
諸経費の増加。【キャンピングカー製造販売、自動車アクセサリ製造販売】
諸経費の増加。【自動車部品、半導体、バルブ等の精密部品加工】
新規案件の減少、電気、ガス等のコスト増。【製造業】
新型コロナウイルスの影響は今後も続くと思われ、不景気感はまだまだ続くと予想します。【精密部品加工業】
人件費(最賃)上昇による製造コスト増加。【消防被服製造卸】
製造業の工場設備投資が弱いと感じます。【工場内自動化装置・省力化装置の設計及び製造】

先の見えないコロナ禍の影響が大きく、先行き暗い。部材仕入がままならず、客先の生産調整もあって受注のあるなしに関わらず収益が上がらない。【電子回路基板設計／製造／販売】
相変わらずのコロナ禍ですが、人の移動が加速し依頼も増加している様に感じます。ただ、材料価格上昇が止まらないので製置施工費も上昇。一般顧客様の財布の紐結びがより強くなるので、より魅力的なサービスを展開したい。【畳製作・畳雑貨販売等】
増収、増益基調にあるが、資材類の遅滞著しく、難点。【輸送機用部品製造】
中国の影響(部品不足)が不透明。【ねじ・ボルト】
電気、電子部品の入手困難。【電気機械製造】
電気代高騰の影響大。【金属製品加工】
電気部品(PLC、タッチパネル、センサー)の納期未定で顧客の注文を受けられない。【超音波洗浄装置】
電気部品の納期遅延。【製缶板金】
電子部品、半導体製品の調達悪化。【電鉄用変電所の負荷管理計測装置の製造】
電子部品の異常なほどの入手困難で納期に影響が出ている。部品の価格上昇で収益に影響が出てきていることが懸念される。【インサーキットテスタ、インサーキットテストフィクチャ、ファンクションテスタ】
電子部品調達が出来ず、苦勞している。円安により仕入単価が上昇している。【電子機器の設計製造販売】
都度受注のため影響に流されやすく、事業体として弱いと感じている。安くても日銭稼ぎの部分で固定費をまかなえる仕事が欲しい。【製造業】
特殊商品の為、需要増加に期待。【アルミダイカスト鑄造補機、ランナー加圧システム等主に鑄巢の減少、除去機械】
日々、生産に必要な物資が値上りしているが、販売先が価格改定に応じてくれない。交渉継続中。【橋梁部品、建機部品、生産設部品】
燃料費、電気の高騰。【金属焼付塗装(粉体塗装が主)】
燃料費増加。【製造業】
廃業を感ずる。【印刷】
売上不振。【電磁弁、電動弁の製造】
半導体ショックの影響が続き、電気部品の入荷が遅れている。【自動機械の設計・製造・販売】
半導体不足、ウクライナ危機の影響を受けて、仕入納期の大幅遅延を来している。また、仕入単価、加工費などが高騰している。【工業用自動機の開発・製造・販売】
半導体不足影響の収束時期について、注視している。【産業用エンジン、発電用エンジン、発電セット、ターボチャージャ】
販売価格の低下が大きく製品を作っても利益が伸びない。【プラスチック樹脂加工・試作品】
部品や材料が入手困難の為、出荷の延期や工程の遅れ等で予定が分からない。【制御盤の製作、エレベーターのケーブル加工や釦の結線など】
部品や材料消耗材の入手が困難な物が増えているうえに、価格改定が頻繁に行われていてかなり仕事に影響が出ている。【各種自動制御装置の設計、製作、施工】
副資材上昇分の販売単価修正タイミング。【金属加工業】
物価の高騰。【精密部品加工】
薬品価格の高騰。【アルマイト加工処理、フープ部分金めつき処理】
輸出関連の客先が多く、世界情勢も含め先行きは非常に不透明。【機械部品製造】
<b>建設業</b>
オミクロン株の影響により、仕事量・雇用が激減。【測量・大工工事業】
コロナ濃厚接触者や罹患者が出た場合の従業員不足となる心配。【造園・土木】



コロナによる不況感。【塗装・防水工事】
コロナウィルスの影響で受注減少傾向出てきています。【新築既築、しろあり防蟻工事、鳥獣駆除(イノシシ、ハクビシンなど)】
緩やかに景気が悪化してきている。【建築鉄骨の製造～組立】
景気観、物価高騰中につき景気が好転するとは考えにくい、資材入手、設備機器、発注しても納期確定しない物が多々ある。【管工事・電気工事】
建築資材の高騰。【建設業】
原材料の値上がどこまで続くのか不安。【特注家具】
雇用状況。【水道工事業】
公共工事採算減少。【公共工事】
公共工事の収益率の低下。【建築物の設計・施工・管理】
鋼材仕入単価の上昇。【鉄骨建築工事】
今年度は受注依頼が減少しています。特に公共工事は競合も厳しくほとんど契約出来ない状況であり、先行き不透明です。【土木建築施工会社】
材料や労務の仕入れ単価が急上昇している状況です。また、加工製品の輸送経費も上昇していますが、それに見合った受注価格になっていないです。今後の受注価格を上げていきたいが、先行きが不透明です。公共・民間工事の物件数が少なくなれば、必然的に価格競争が激しくなり、価格が上げられないです。【鉄筋工事】
材料代の値上げ、商品の入荷の目途がたたない。【リフォーム、空調工事】
材料単価の上昇が止まらない。転嫁できないものも発生し始めている。運賃・送料の上昇が大きい。【クリーンルーム、居宅介護支援】
材料費の高騰。【電気設備工事】
材料費の上昇。【解体・土木・エクステリア・建築】
仕入れ価格の上昇。【内装工事】
仕入れ価格の上昇を販売価格に転嫁するのは競合があるため難しい。【管工事】
仕入単価が上昇し、採算が悪化している。【総合建設業(建築他)】
仕入単価の上昇。【住宅、リフォーム工事】
仕入単価の上昇が留まらない。【主に大工】
仕入単価の上昇に対し売価一定のため、下請けの立場の我々が利益薄。【エクステリアの工事、販売】
資金繰りの悪化。【建物解体業】
資材、人件費、固定経費の見直しが必要不可欠。【建築内装業】
資材高騰、資材納期の遅れ、コロナでの従業員休業などの工事遅延。【空調設備工事】
受注の減少。【外構工事】
受注の単価が安くなっているが、材料価格などが高くなり負担が大きい。【防水工事】
受注依頼はあるものの半導体不足や海外生産工場のロックダウン等により、取扱製品が入荷せず、売り上げにならない。【ポンプ、送風機のメンテナンス】
受発注の状況。【水道土木工事業】
受発注の状況は普通、雇用状況は良くない、景気感は良くない。【建設業】
従来から売上高が上下してますが、今期はその上下幅が極端です。安定しないことで不安があります。【厨房設備工事】
新型コロナウイルス感染症の流行に伴うサプライチェーンの停滞、産油国の生産調整による原油価格の上昇、ロシアのウクライナ侵攻による資源の需給バランスの崩れ等により、想定を上回る建設資機材の著しい価格高騰に伴う厳しい価格交渉と調達先新規開拓の難航。【総合建設業・土木建築工事の請負・土木建築工事に関する調査、企画、地質調査、測量、設計、ほか】

人手不足の解消が今後の課題だと感じている。【外構工事業】
税金が高い。【電気工事】
先行き不透明。【塗装】
中小、個人事業主は、今も昔も変わらず、努力してると思う。いよいよ厳しい状態になりそう。【マンション(分譲)リノベーション時の内装仕上施工】
売上の先行き不安。仕入れ単価の上昇。【内装工事(造作・家具・建具・LGS・ボード)】
部材などの仕入れ価格が上昇、入荷遅延。【住宅リフォーム、塗装工事業】
物価上昇に困惑している。【総合建設業】
民間工事の採算が厳しい。【電気工事業】
輸入材料の高騰、雇用状況(特に若年者の不足)。【公共土木工事】

<b>小売業・卸売業</b>
11月頃、一時回復期待。【たばこ、酒、飲料、toto・宝くじ】
7月からの急激なコロナ蔓延の影響で客足が鈍った事とウクライナ情勢による諸物価の上昇で消費意欲がダウンしたのが要因と思います。【メガネ・コンタクトレンズ・補聴器の販売】
アミューズメント業界の不況感。円安の影響での諸経費の増加。【電子応用機器の輸出入、電子黒板の販売、アミューズメント機器の企画、設計】
ウクライナショック長期化懸念。【管工機材及び住宅設備機器総合卸売】
ここ2カ月位人が来ない。【小売業】
コストプッシュ・新型コロナウイルスの影響から先行きが不透明。【地方卸売市場(青果)の運営】
コロナ、ウクライナ、中国ロックダウン、円安などの複合的な影響で仕入れコストが上がり、また販売にも影響が出ています。【自動車部品、用品の輸入卸売】
コロナで急なキャンセルもたくさんあります。イベントも少ないです。【生花店】
コロナの影響がなくなりつつあり、少しずつ持ち直す様子。【健康食品】
コロナ禍とウクライナ情勢で、原材料、エネルギー価格が上昇していて、利益が減少傾向。秋より、商品価格を随時値上げする予定。食品を中心に、値上がりを重大視する報道が多く、消費者のマインドが冷えないか心配。最低賃金32円加算も懸念材料。【米菓製造販売】
コロナ禍において好調であった個人消費が少し落ち着いてきた傾向がある。【健康食品の小売、卸、取扱商品／玉葱皮茶など】
コロナ禍第7波と猛暑が重なり7月後半から来客数と売上の低下が顕著になり、それが8月の前半もそのまま続いてしまっています。特に今回のコロナの影響は蔓延防止等重点措置や緊急事態宣言下の昨年一昨年よりも大きいです。具体的には実際にコロナに罹患した方や濃厚接触者になってしまった方が顧客様の中に多く発生していて、結果としてご来店客数や販売数が落ち込むという問題が発生しております。過去2年では把握している顧客様の中で感染者が0だった事を考えると今回は大打撃です。【紳士服・婦人服・靴・鞆・雑貨小売、カフェ営業】
コロナ感染者数の減少で、大きく売上の増減影響を受ける。【学校衣料品】
コロナ前の需要と現在の需要の見込みが難しい。【衣料・食品・暮らしと住まいの品・医薬品を販売しておる総合小売業】
円安の影響が大きく、仕入単価が高くなり物流費用などのコストも高くなりました。経済環境は厳しく感じます。【電子部品の輸出・入金属部品の加工・販売など】
観光業向け販売減少。個人向け24時間風呂の販売減少。【24時間風呂・風呂用ろ過装置販売・修理。メンテナンス】
急激な円安と値上げによる仕入コストの上昇を販売価格に転嫁しきれない状況が厳しい。値動きが速すぎて、為替リスクの管理やリスクテイクが困難である。【産業機械(溶接機、工作機械とう)】

給料上がらず諸物価値上り。【食肉】
今年からの異常な原材料の高騰。【介護用食品の開発&販売】
最近の異常気象による生鮮青果物への被害。【青果物卸売業】
材料費ほとんど値上げで商品の値上げを急にすることも難しい。この先、仕入状況も悩んでいる。【パン製造・販売】
仕入の価格の上昇が止まらず、販売価格にはすぐに反映できないにも関わらず、経費もかさみ、収益が下がり経営状況が不安。【産業機器及び周辺機、金型の販売及び自動機の製造販売】
仕入単価が上昇している上に品物がなかなか入ってこないのので、それを見越して先行発注をしているが、仕入先に払う資金がギリギリになってきている。【空気圧機器の卸売と一部製造】
仕入単価の上昇が著しい。【電気絶縁材料、工業用樹脂・加工】
仕入値の上昇が止まらない。【スポーツ用品販売】
車が製造できず、売っても納車ができない。【自動車販売、整備】
取引先・仕入れ先の対応力や対応スピードが著しく低下してきている。人員不足か否かわからないが、仕入れ先・取引先のその先(資材メーカー等)から同様なことが起きている様子。【省庁向け資材・器材開発・販売、省庁向け機材整備、民間向け機材整備、インターネットショッピングモール内店舗運営】
新型コロナと共に経済の好流通はあり得ません。国はまずは国民に円を。【米穀、酒類、飲食料、雑貨、菓子、軽衣料等取り扱っています。】
人件費の高騰、輸送費、ガソリン代の高騰、仕入価格の高騰、扶養控除価格不変。【文具、事務用品小売】
超高齢化、空き家。【LPガス、灯油、リフォーム】
長引くコロナウィルス感染症による景気悪化(個人消費の低迷等)により売上がなかなか上がりません。【畳材料(畳表、畳床、縁等)】
電気代金、自動車の燃料代金の増大がかなり大きく経費がかなり増大傾向にあると感じています。【食肉】
電子マネーの手数料が多くなっている。【自転車、スポーツバイク、販売・修理】
物価高の影響からか、個人消費の低迷が見られ、売上でなかなか前年比を上回ることができない。エネルギー価格の高騰、仕入費の高騰など、下半期についても売上が改善する見込みが見られない。【観光物産品】
物価高の影響からか、個人消費の低迷が見られ、売上でなかなか前年比を上回ることができない。エネルギー価格の高騰、仕入費の高騰など、下半期についても売上が改善する見込みが見られない。【観光物産品】
物価高騰による売り上げの低下。【自動車・部品販売及び修理】
来店数減少、コロナキャンセル増。【化粧品販売、エステ、リフレクソロジー施術】

<b>飲食業・サービス業</b>
新卒採用が難しくなっている。案件が増えてきており、業界的には活況だと思われる。リモートワークの影響か、身体不調の社員が増えている。離職率が高くなっている。【ソフトウェア開発、サーバー構築】
「女子サッカー及び女子スポーツに対する興味・関心の低下」「個人消費の低下」。【プロスポーツチームの運営】
①昨年の休業が多い為比較は難しい②コロナ7波は客減少③仕入単価が急上昇④エネルギー関係費用上昇。【酒、刺身、焼物、煮物他】
①人手不足②物価の高騰③顧客の減少。【ダスキン、清掃業、家事代行、空気清浄機等販売】
①物価の上昇②コロナの影響により客足が伸びない。【飲食業・宿泊業】

7月復活の兆しが見えましたが、7月末より新型コロナウイルスの影響が出ています。取引先はほぼ物価上昇値上げが激しいです！【居酒屋】
DX化するのにお金がかかる。売上減少。【保険代理店業】
アルバイトがなかなか見つからない。【和食】
インフレの懸念。【ソフトウェア受託開発、自動化システム設計開発】
ウクライナ紛争、中国のロックダウン、米国港湾ストなどによるエネルギー価格・原材料価格の高騰、並びにサプライチェーンの混乱あり。半導体不足は業種によりやや平準化。【プレス機械関係自動化・システム化、品質および環境マネジメントシステムによる改善支援】
ガソリン価格。【廃棄物収集運搬】
ガソリン代の値上げ。【オートバイ出張メンテナンス】
コロナ。【建設機械・資材】
コロナウイルス、燃料高騰、メーカー先の不祥事、中小企業が抗ってどうにかなることではない事が多すぎる。【自動車部品】
コロナが長引いて、時代が変化してゆくことを感じる。小規模の店舗には、人件費のUPは痛い。最低賃金を上げるより物価統制を…。【ラーメン店】
コロナで行動抑制、感染増による人手不足。【接骨院】
コロナで夜の飲食がイメージ悪くなり、お客様の足が遠のく。TVの人数(コロナ)増は、特にひどくなる。【料理、アルコール】
コロナによる先行き不透明感。【装置の設計】
コロナの影響で、仕事の話が出たり引っ込んだりしている。
コロナの影響で、予定されていた方が通所できず、計画を下回っている。【知的障害のある方の通所施設(日中)】
コロナの影響で経営不振になり、あといつまで持つか？【金券、リサイクル品、趣味切手、カードコインの売販】
コロナの感染者数と、お客さんの動きが止まる事が顕著にみられた。【鍼灸院】
コロナや中国問題に起因する派遣先企業の業績悪化に伴う派遣人員の削減。特定技能人材の採用見送りによる新規事業の低迷。【人材総合サービス】
コロナや物価高、人材不足について、もっと効果的かつ強硬な施策が必要にもかかわらず、政府、行政の努力不足と能力低下が目立つ。行政のできることの3割もできていない印象。行政の必死さが伝わってこない。民間はよくやっている。【税務申告・会計監査】
コロナ禍における葬儀縮小による販売単価減少。【葬祭事業】
コロナ禍による外出自粛、感染者増などが発生するとさらなる売上減少が予測される。【経営コンサルティング業・生命保険、損害保険代理店】
コロナ禍による入国制限により、外国人との賃貸契約数の減少。コロナ禍による業者間の情報交換量の減少(会う機会の減少)。【不動産コンサルタント、不動産仲介、権利調整、賃貸管理】
コロナ禍による訪問先の減少。【鍼灸マッサージ業】
コロナ禍の影響で今後の経済の動向が心配ですね。私はそう思います。【自動車関係、修理、販売、保険、板金、リース業】
コロナ禍の関係で、従業員やご利用者の間で、感染もしくは濃厚接触の疑いでその対応に苦慮しています。特に人手不足に拍車がかかる状況です。【訪問介護】
コロナ時代で社会全体的に不安な気持ちがあり、購入意欲が落ちている。【小包の配送】
コロナ前と比較するとまだ落ち込んでいるが、昨年のコロナの影響と比較すると好転している。今後の好転に期待できる。【パソコン修理、データ復旧】
コロナ第7波による消費低迷。【飲食店】
コロナ第七波の終息。2類から5類への政府政策転換。この二点が大きな景気回復の要因となる。【旅行業】

さまざまな値上げによる経費の増加が心配。優秀な従業員の確保が難しい。【就労移行支援、就労継続支援B型、生活介護、共同生活援助等の障害福祉サービス】
ずっと景気が悪いという気がしている。【金属の鋳造における凝固シミュレーションシステムの製造・販売】
ニュースによれば、大手の経常利益は昨年今年と連続して過去最高を記録したと報道されていて、景気回復しているように思われるが、中小企業からの値上げ交渉には未だに消極的であるため中小企業は景気観が感じられない。【梱包業、梱包資材の販売】
まだまだコロナウィルスの影が。【ラーメン店】
駅前近くの安売り店の影響でお客様の流れが変わり、又、外出を控える人が多くなった。【美容業】
円安および原材料高騰の長期化に伴う景気への影響。【中小企業金融】
円安の影響で景気は後退、諸費用の増加で利益率が下がっている。【不動産賃貸管理、仲介、売買】
何といってもコロナ禍の影響は長く尾をひいていると思います。業種によっては一長一短ありますが、なかなか元には戻りませんですネ。最近の物価高や様々な経済高には先行き不安を感じます。【中国料理・飲物・チャーハン・生ビール・サワー各種・ウイスキー・ハイボール・餃子・あんかけやきそば】
回復していると感じているものの、半導体不足により得意先からエンドユーザーへの販売低迷。【人材派遣業】
株価の不安定化。【不動産業】
客足増加。【ビジネスホテル】
業種柄コロナの影響は全く受けてないが、今後の最賃大幅上昇は労働集約型企业にはダメージは大きく、価格転嫁が困難な中下期に向け採算性は悪化する見込み。【清掃・警備・設備保守】
銀行がまったく役に立たないこと。土地があっても貸してくれない。これでは中小はたおれる。【不動産業】
苦戦していた新規テナント募集は、何とか目途が付き、売上高は前年対比増加傾向にあるものの、昨今の物価高や人手不足により、コスト増が懸念される。【不動産賃貸管理】
景気悪化。【保険業】
建築材料費の高騰。仕入れ用地不足。【不動産売買】
原油価格の上昇による原材料、消耗品類の仕入単価上昇。【クリーニング業】
個人消費の低迷。【酒類・フード】
個人消費の低迷。【不動産仲介】
個人消費の低迷。【学習塾】
雇用応募者が減って、ドライバー不足は深刻です。【運送】
雇用状況が心配です。【タクシー】
雇用状況の不安。【運送業】
顧客においては円安影響大きい。【金融業】
好景気の感触。【理容】
行動制限緩和により若干ではありますが観光事業に回復の兆しがある。しかしながら、感染が急拡大している昨今、今後の影響が懸念される。また、燃料価格の高騰を受けて採算は厳しいものとなっている。【貸切バス事業等】
今年度は、県からの受注が大幅に増加したことから、経営は安定したものと考えます。【自家発電工作物保安業務】
最低賃金の引上げ。【人材派遣、受託事業】
最低賃金の引上げによる人件費の増加。【グループ会社の経理事務、総務等の受託、車両等のリース、企画広告の請負】

最低賃金の上昇。【ビルメンテナンス】
最低賃金の上昇、利益率悪化。【給食委託業務】
採用については改善の兆しが無し。【人材派遣業】
昨年の緊急事態宣言、まん延防止重点措置解除後の売上回復を見込んでいたが、解除前とさほど変わらない売上で推移している。その傾向は今年も続いており、資金繰りに困窮している。【鍼灸院】
昨年同月期が好調だった反動が出ている。【保険代理業】
仕入の上昇が2段階、3段階と続き収益率の低下になっている。【屋外広告業(看板製作・施工)】
仕入れの高騰、コロナによるお客様の減少。【酒類及び料理提供】
仕入単価の上昇、人件費上昇。【保育事業】
仕入単価の上昇、納期が長くなり、受注は順調。【ポンプ、モートル、関連修繕、販売】
仕入部材の劇的な高騰。【買取・分譲住宅】
仕入部品の単価が上昇、油脂製品の不足(原油高による)賃金相場が上昇している。【自動車整備業】
使用部材の納期遅延により、商品開発計画が大きく遅れる事態が発生している。国内サプライヤーの撤退が相次ぎ、海外(特に中国)サプライヤーに頼らざるを得ない状態を何とかしたいが、大手企業も中国勢に押され撤退後の再開は難しいようだ。国の後押しが必要なのではないかと感じている。【エネルギー変換素子(現在は太陽電池)の研究開発】
市内において実需層の動きが停滞。不動産流通の中心は業者間の比率が上昇。【不動産売買・仲介・管理】
資・機材の値上がりに対し工事単価が上げづらい状況。設備の投資に回す余力がなくなってきました。【高圧洗浄作業】
受注の低下。新分野に対する技術対策が遅れている。【編集・デザイン・印刷・HP・看板サイン制作】
受注拡大にしたいが、不透明感あり守りになりがち。【カイゼン活動を通じた人材育成の支援】
集会や宴席を行いやすい環境かどうかが当社の事業に大きな影響を与えております。コロナの感染状況や世間の風潮など。【冠婚葬祭、介護】
諸物価が上がり人件費にも影響する中、Covid19の影響が長引いているので先が見えない。【機械部品、電気設備等】
上半期はコロナ禍の影響もあってイベントの縮小化もあったが、コロナが落ち着きやや上昇したものの、やはり感染が拡大すると、影響してしまう。この繰り返し。【葬祭業、仏壇仏具販売】
色々な物が値上げされて経費が掛かっています。売上を上げて追いつかない。コロナ感染者数で人流が変わるため売上也きちんとは読めずスタッフも濃厚感染などで緊急の休みを取るなどしなくてはいけなく毎日対応に気が休まりません。【ヨガ・ピラティスのレッスン、それに付随する物販】
新規顧客が増えない。【コンサルタント】
新型コロナウイルスによる景気後退、仕入れ価格の上昇。【電気保安全管理サービス、電力コンサルティング】
新型コロナウイルスの出口が見えず。しかし、経済は回す。現状、世界一の感染率及び感染者数と落ち着いたら振り返す現状、やれる事は全てやっても、影響は甚大です。次に円安の打開戦争に於ける原材料費等々の高騰、中小企業には明るい材料が見えないし無い気がします。【墓石清掃、墓石クリーニング、墓石コーティング、石材特殊清掃】
新型コロナウイルス感染拡大。【ペットボトル等中間処理業務】
新型コロナウイルス感染症の影響がいつまで続くかわからない。ウクライナとロシアの戦争の影響で光熱費が増加している。円安の影響で材料の値上がりが続いている。【美容業】

新卒、キャリア採用とも十分な人員を確保できていない。【人材派遣】
診療報酬の改定の影響が考えられるが、在宅医療に関しては不変だと思われる。【訪問診療及び外来診療】
人材不足。【税務書類の作成】
人手不足。【ビルメンテナンス業】
人手不足！！雇用したいが面接にも来ない。結果やりたい事が出来ない。【一般理美容】
正社員の追加募集広告に応募が思うように進まない。【私立小学校、プリスクール、英会話教室の運営】
設計受託業務が引き続き減少傾向にある。【設計受託・請負業務、労働者派遣事業、求職者支援訓練事業】
鮮魚、食肉（輸入品）の単価が大幅にアップ、特に輸入食肉に於いては毎月のようにアップしてます。【フランス料理、仕入れ、仕込み、料理の仕上げ、盛り付け、料理提供サービス】
長引くコロナ禍の状況で今後の企業の雇用状況の動向が不安である。弊社は賃貸管理事業において住宅系が大半であるので、事業系の賃貸ほどの影響はないが、今後の雇用状況には不安がある。【土地・建物等不動産の売買・仲介業（賃貸も含む）、不動産に関するコンサルティング、賃貸不動産の管理受託業務】
電気、ガス料金の値上げ、及び他の経費も値上げとなると、価格転嫁ができず、極めて業況は悪化、また最低賃金も価格転嫁できず、極めて厳しい。【福祉施設運営】
電力・ガス費用が大幅に高騰、特に背景となっているのは、燃料調整額が毎月上昇しており、手が打てない状況になっている。昨夏電力会社を切替えて基本料金の低減（▲2割ダウン）を実施したのも束の間、新電力会社は自社のコストアップに耐え切れず、一方的に契約の打ち切りを告知してきた。電力供給については、このままでは立ち行かなくなるので国の将来構想の明確な提示と具体策の実行を切にお願いしたい。この他、仕入先からの材料コスト（資材や食材など）の上昇が続いており、値上げを認めないと供給を止められてしまう懸念がある。【会員制ゴルフクラブの運営】
良くなるキザンはないですね！！【その他のサービス業】
入札に関し、圏外本社が市内にダミー形態の事務所を有す企業が極端な低単価で参入すると、適正価格での応札が難しく、収益の安定が図れない。指名入札→一般入札に変更した事も影響大である。【ビル清掃、設備管理業】
年間売り上げは年間契約先が主で変動はそうないが、労働集約型産業であるだけにこの秋の大幅最賃改定は収益減に直結してくる。【清掃・警備・設備保守】
燃料の高騰。【運輸業】
燃料の高騰が激しい。【部品輸送、一般雑貨】
燃料代、電気代の上昇。【廃棄物】
燃料費の高騰と人材不足。【総合物流】
売掛金回収の長期化。【航空写真測量】
半導体入荷不足との事で製品納入遅れによる販売不足。【エアコンプレッサーの販売・整備】
半導体不足の影響。【不動産売買・賃貸・仲介・管理】
非鉄金属相場の下落で売上高減少、仕入価格も下落により利益率は微減。【産業廃棄物リサイクル、非鉄金属精錬原料販売】
不況感の感触大。【その他のサービス業】
不況時の最低賃金上昇。【運輸業】
部品納入に時間がかかる。納入時期未定等。【専門・技術サービス業】
物価高が困りものです。【不動産賃管理】
物価上昇。【生ジュース調理販売】
物価上昇、雇用問題、コロナ収束。【給食受託業及び飲食業】

物価上昇により、医療消耗品の取引先検討中。【動物病院】

来年以降の世界恐慌、食糧難とエネルギー不足問題。【社会保険労務士業】



## 経営上の問題点

### 単純集計

経営上の問題点(3つまで回答可、n=686)

	回答割合
売上不振	25.6% 231
受注単価・販売価格の低下	8.5% 77
収益率の低下	26.2% 236
個人消費の低迷	9.9% 89
販売先の減少	6.1% 55
大型店の進出	0.8% 7
チェーン店等との競争激化	0.2% 1
公共工事の減少	2.5% 23
民間工事の減少	3.2% 29
仕入単価の上昇	41.4% 373
円安の影響	9.1% 82
円高の影響	0.7% 6
代金回収困難	0.7% 6
諸経費の増加	18.0% 162
従業員(含、臨時)が過剰	0.3% 3
従業員(含、臨時)が不足	15.6% 141
設備不足・老朽化	8.1% 73
特になし	4.5% 41

### 製造業

今回調査を見ると、多くの指標が減少している。特に減少が大きかったのは「売上不振」、「仕入単価の上昇」、「収益率の低下」である。前期に比べて景況が改善する方向に向かっていることがわかる。

	R3年7~9月 n=261	R3年10~12月 n=224	R4年1~3月 n=214	R4年4~6月 n=229	今回調査 n=180
売上不振	51.4%	46.9%	46.7%	43.2%	28.8%
受注単価・販売価格の低下	18.0%	12.9%	13.1%	11.4%	10.5%
収益率の低下	35.9%	33.0%	35.5%	38.4%	29.7%
個人消費の低迷	6.1%	3.1%	4.2%	2.6%	1.3%
販売先の減少	11.4%	12.5%	6.5%	8.3%	6.6%
大型店の進出	0.8%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%
チェーン店等との競争激化	0.4%	0.9%	0.5%	0.0%	0.0%
公共工事の減少	1.6%	1.8%	0.5%	0.9%	0.0%
民間工事の減少	2.4%	1.8%	0.9%	2.6%	1.3%
仕入単価の上昇	47.8%	61.6%	65.0%	70.7%	55.5%
円安の影響	2.0%	6.3%	5.1%	18.8%	12.2%
円高の影響	1.2%	0.4%	1.4%	2.6%	1.3%
代金回収困難	2.4%	1.3%	0.9%	0.4%	0.0%
諸経費の増加	13.1%	16.1%	19.6%	21.4%	17.0%
従業員(含、臨時)が過剰	2.0%	1.3%	1.4%	2.2%	0.0%
従業員(含、臨時)が不足	16.7%	21.4%	21.0%	17.5%	13.5%
設備不足・老朽化	20.8%	16.1%	15.9%	11.4%	12.2%
特になし	4.1%	2.7%	2.3%	1.7%	1.7%

## 経営上の問題点(業種別)

### 建設業

「売上不振」が若干増加した以外は、多くの指標が減少。「仕入単価の上昇」、「収益性の低下」、「従業員が不足」が特に減少した。製造業同様、改善の兆しがみられる。

	R3年7~9月 n=182	R3年10~12月 n=184	R4年1~3月 n=144	R4年4~7月	今回調査 n=124
売上不振	34.3%	34.8%	31.3%	21.8%	23.8%
受注単価・販売価格の低下	17.5%	19.6%	17.4%	21.8%	17.0%
収益率の低下	27.7%	29.9%	34.0%	40.1%	33.3%
個人消費の低迷	7.2%	5.4%	5.6%	6.1%	4.8%
販売先の減少	7.8%	5.4%	4.2%	5.4%	5.4%
大型店の進出	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
チェーン店等との競争激化	1.8%	2.2%	0.7%	0.7%	0.7%
公共工事の減少	18.7%	19.6%	20.8%	15.6%	8.2%
民間工事の減少	28.3%	21.2%	22.2%	21.1%	15.0%
仕入単価の上昇	36.1%	46.2%	53.5%	66.7%	57.8%
円安の影響	0.0%	3.3%	2.8%	6.1%	4.1%
円高の影響	0.0%	0.5%	0.0%	0.7%	0.0%
代金回収困難	3.0%	0.5%	1.4%	0.0%	0.0%
諸経費の増加	13.9%	15.2%	15.3%	15.6%	14.3%
従業員(含、臨時)が過剰	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%
従業員(含、臨時)が不足	30.1%	31.5%	30.6%	29.3%	21.1%
設備不足・老朽化	4.8%	6.0%	5.6%	3.4%	2.0%
特になし	4.2%	7.1%	3.5%	0.7%	4.1%

### 小売業・卸売業

「諸経費の増加」、「円安の影響」が増加している。「売上不振」、「個人消費の低迷」、「仕入単価の上昇」、「販売先の減少」、「チェーン店との競争激化」は大幅に減少した。

	R3年7~9月 n=166	R3年10~12月 n=158	R4年1~3月 n=129	R4年4~6月 n=144	今回調査 n=92
売上不振	51.5%	51.9%	47.3%	49.3%	22.2%
受注単価・販売価格の低下	8.3%	12.0%	8.5%	5.6%	4.2%
収益率の低下	34.9%	34.8%	38.0%	32.6%	25.0%
個人消費の低迷	32.0%	29.7%	34.9%	29.2%	18.8%
販売先の減少	24.3%	21.5%	17.8%	16.7%	6.9%
大型店の進出	3.0%	3.2%	3.9%	2.8%	2.1%
チェーン店等との競争激化	10.1%	10.1%	8.5%	9.0%	0.0%
公共工事の減少	4.1%	2.5%	0.8%	0.7%	2.1%
民間工事の減少	5.9%	2.5%	0.0%	3.5%	0.0%
仕入単価の上昇	35.5%	33.5%	49.6%	54.2%	41.0%
円安の影響	3.0%	6.3%	6.2%	11.8%	13.2%
円高の影響	0.6%	0.6%	0.0%	3.5%	0.0%
代金回収困難	2.4%	3.2%	1.6%	0.7%	1.4%
諸経費の増加	13.0%	20.9%	16.3%	13.9%	16.7%
従業員(含、臨時)が過剰	0.6%	1.9%	0.0%	0.7%	0.0%
従業員(含、臨時)が不足	9.5%	12.7%	12.4%	13.2%	5.6%
設備不足・老朽化	8.9%	5.7%	12.4%	6.3%	5.6%
特になし	6.5%	6.3%	3.1%	3.5%	1.4%

## 経営上の問題点(業種別)

### 飲食業・サービス業

ほぼすべての指標が減少した。特に減少幅が大きかったのは、「売上不振」、「個人消費の低迷」、「仕入単価の上昇」、「従業員が不足」などである。業況は改善傾向となっている。

	R3年7~9月 n=418	R3年10~12月 n=418	R4年1~3月 n=353	R4年4~6月 n=382	今回調査 n=290
売上不振	44.0%	39.6%	42.8%	37.4%	25.7%
受注単価・販売価格の低下	8.0%	8.6%	7.1%	5.8%	5.8%
収益率の低下	27.3%	27.3%	29.7%	25.7%	21.7%
個人消費の低迷	25.3%	19.2%	19.3%	21.5%	13.6%
販売先の減少	13.8%	9.1%	12.7%	8.6%	5.8%
大型店の進出	1.3%	1.0%	0.6%	1.0%	1.0%
チェーン店等との競争激化	3.0%	2.5%	2.5%	2.1%	0.3%
公共工事の減少	4.8%	2.0%	2.0%	1.8%	2.1%
民間工事の減少	4.5%	2.0%	2.5%	3.4%	1.0%
仕入単価の上昇	16.3%	26.0%	26.3%	33.0%	26.7%
円安の影響	0.3%	2.3%	1.1%	9.2%	7.6%
円高の影響	0.0%	0.0%	0.3%	1.8%	0.8%
代金回収困難	2.0%	1.5%	1.4%	1.6%	1.0%
諸経費の増加	15.3%	20.5%	25.5%	22.3%	20.4%
従業員(含、臨時)が過剰	1.8%	1.3%	2.0%	1.6%	0.8%
従業員(含、臨時)が不足	23.0%	29.3%	23.5%	25.9%	18.6%
設備不足・老朽化	13.8%	12.1%	12.2%	12.0%	8.9%
特になし	11.3%	14.4%	8.8%	10.2%	7.6%